

# 区民移動実態把握に関するアンケート調査結果（概要）

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

公共交通サービスの在り方を検討するため、区民移動実態の把握に関するアンケート調査を実施し、移動ニーズについて整理した。

### (2) 配布・回収状況

区民 18 歳以上を対象に、無作為に抽出した 3,000 人に配布し、1,202 人（回収率 40.1%）を回収した。町丁別回収率も約 40%前後となっており、回収率に地域差は見られない。

なお、回答比率は、四捨五入の関係で合計が 100 にならない場合がある。

表 1-1 調査概要

内容	
調査時期	平成 30 年 8 月 21 日 ～平成 30 年 9 月 5 日
調査対象	中野区全域 18 歳以上
調査方法	・3,000 人を無作為抽出 ・郵送配布・郵送回収

表 1-2 配布・回収状況

町丁	人口	配布数	回収数	回収率	人口比
1 南台	20,216	264	112	42.4%	0.6%
2 弥生町	22,847	154	68	44.2%	0.3%
3 本町	29,231	197	72	36.5%	0.2%
4 中央	29,235	195	70	35.9%	0.2%
5 東中野	23,538	159	62	39.0%	0.3%
6 中野	27,258	184	88	47.8%	0.3%
7 上高田	20,990	246	93	37.8%	0.4%
8 新井	18,208	123	55	44.7%	0.3%
9 沼袋	13,831	93	41	44.1%	0.3%
10 松が丘	6,523	72	31	43.1%	0.5%
11 江原町	9,271	117	45	38.5%	0.5%
12 江古田	12,119	135	56	41.5%	0.5%
13 丸山	5,003	64	22	34.4%	0.4%
14 野方	21,467	145	54	37.2%	0.3%
15 大和町	15,713	204	72	35.3%	0.5%
16 若宮	12,779	153	56	36.6%	0.4%
17 白鷺	11,784	135	56	41.5%	0.5%
18 鷺宮	16,690	192	78	40.6%	0.5%
19 上鷺宮	14,138	168	67	39.9%	0.5%
20 不明(無効票)	-	-	4	-	-
回収数	330,841	3,000	1,202	40.1%	0.4%
有効回収数	-	-	1,198	-	-

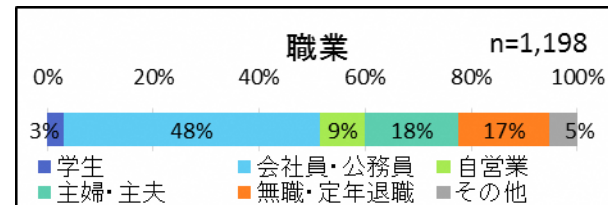
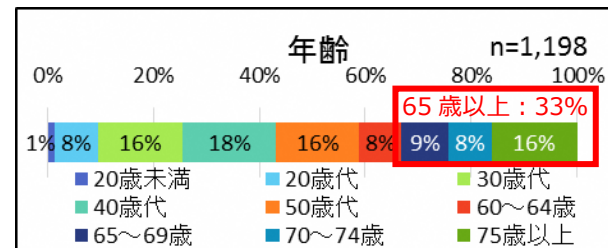
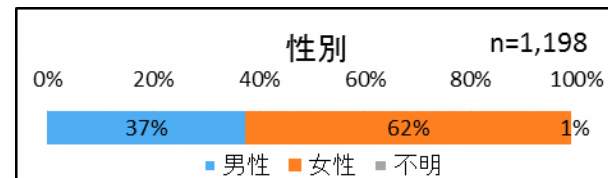
## 2. 回答者の属性（性別・年齢・職業）

性別は、62%を「女性」が占める。

年齢は、全年齢層から回答を得ており、65 歳以上の高齢者は、33%である。

職業は、「会社員・公務員」が最も多く 48%、次に「主婦・主夫」が 18%、「無職・定年退職」が 17%である。

図 2-1 性別・年齢・職業



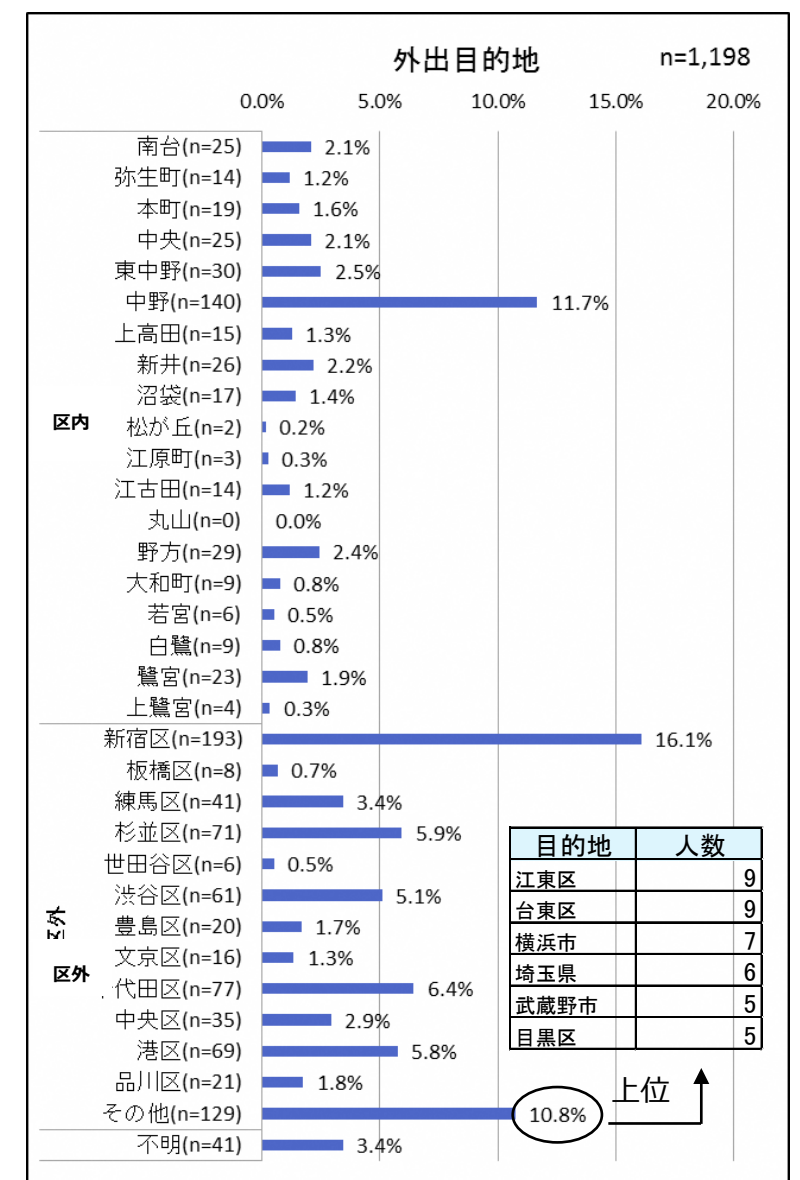
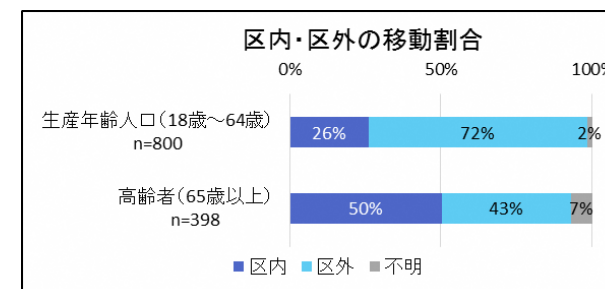
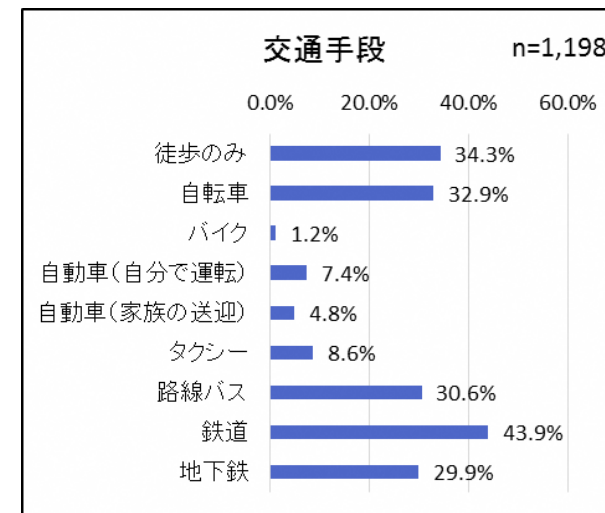
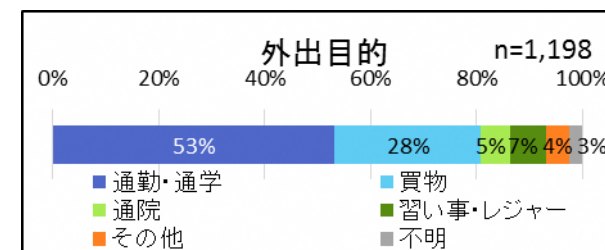
## 3. 区民の日常の移動実態（外出目的・外出目的地・交通手段）

会社員・公務員が約半数を占めていることもあり、日常の外出目的は「通勤・通学」が 53%、次に「買物」が 28%を占める。

行き先の外出目的地は、「新宿区」が 16.1%、次に「中野駅周辺」が 11.7%を占める。区内・区外の移動割合を年齢構成で見ると、生産年齢人口（18 歳～64 歳）の 72%は区外に移動している。一方、高齢者（65 歳以上）は、区内の移動が 50%を占め、区内移動の割合が高い。

交通手段は、「鉄道」が最も多く 43.9%を占め、「徒歩のみ」「自転車」「路線バス」「地下鉄」は約 30%を占めており、さまざまな交通手段により、移動していると考えられる。

図 3-1 外出目的・交通手段・外出目的地



# 区民移動実態把握に関するアンケート調査結果（概要）

## 4. 交通手段の満足度と公共交通不便地域

満足が約 66%と満足度は高い一方で不満が 14%存在しており、「大和町」「若宮」「江原町」の順に不満が高い。鉄道駅・バス停から半径 250m の範囲から外れる公共交通不便地域は、鷺宮圏域に集中しており、特に「大和町」「若宮」は木造住宅密集地域で狭い道路が多く、路線バス等が通りにくい。

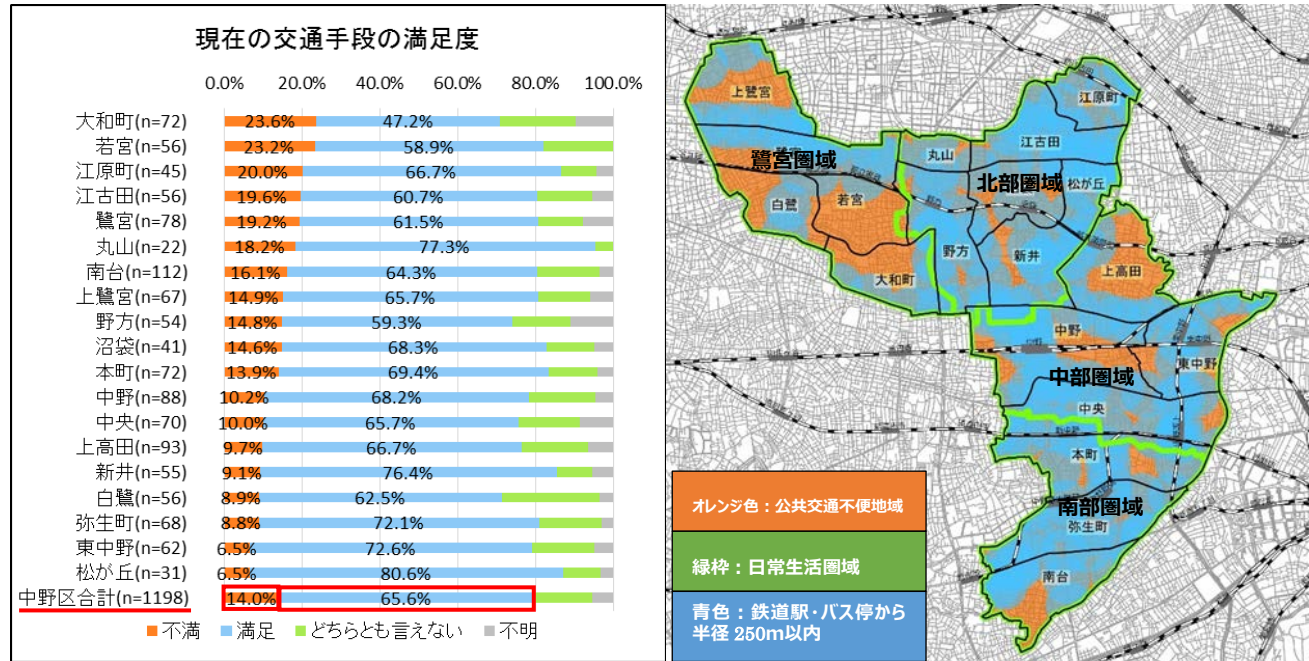


図 4-1 現在の交通手段の満足度

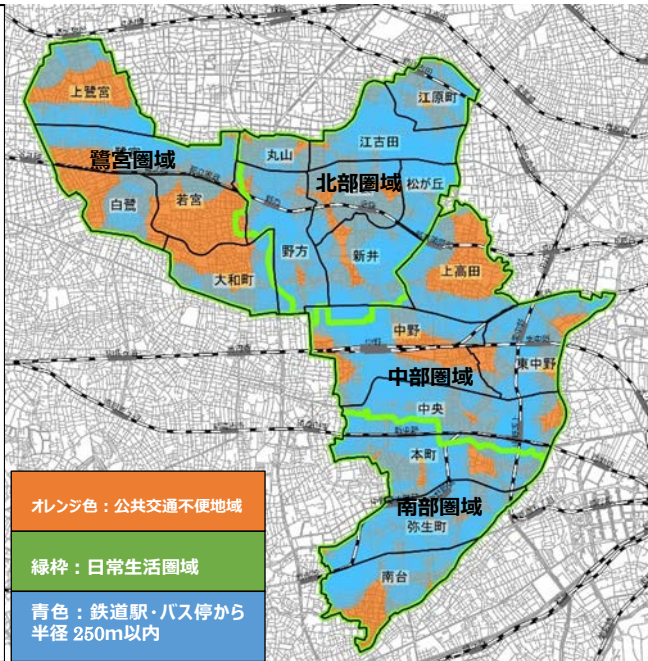


図 4-2 公共交通不便地域

## 5. 公共交通不便地域（鷺宮圏域）の日常の移動実態と移動ニーズ

鷺宮圏域（上鷺宮、鷺宮、白鷺、若宮、大和町）について、アンケートを集計した。

### (1) 外出目的と交通手段

「通勤・通学」が 48.3%、次に「買物」が 30.1%を占める。これらの外出目的の交通手段は「鉄道」が最も多く 58.1%を占め、次に「自転車」が 36.8%、「徒歩のみ」が 31.3%の順である。また、「路線バス」は、27.7%である。

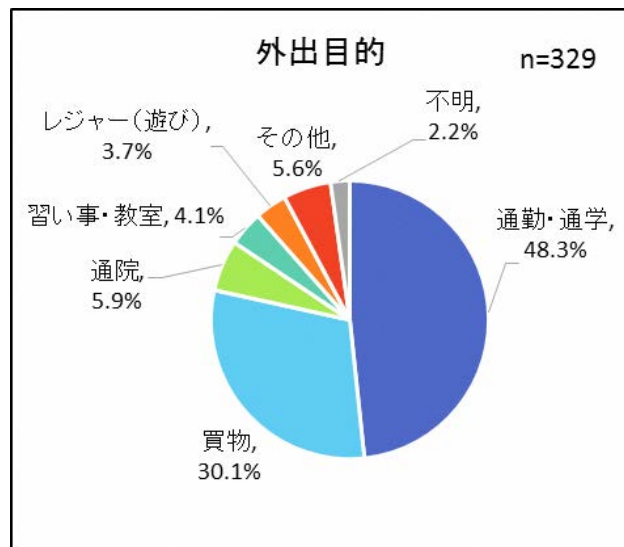


図 5-1 外出目的

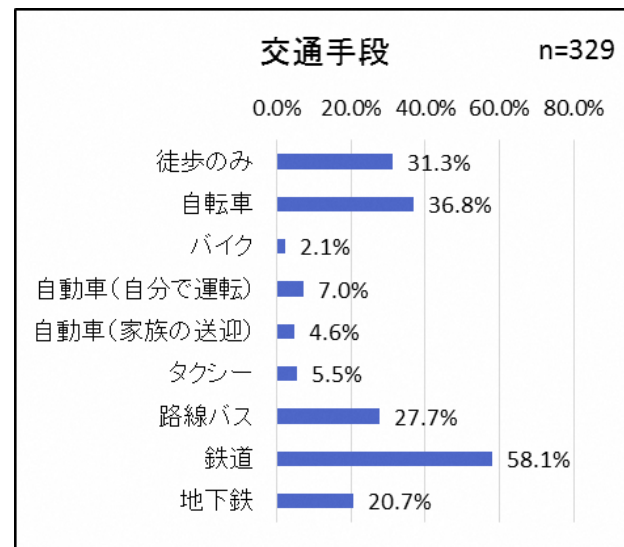


図 5-2 交通手段

### (2) 路線バスへの不満理由と移動ニーズ

「目的地の近くまで行くバス路線がない」の不満が 38%を占め最も高い。また、不満と回答した区民の移動ニーズは、「中野駅」が 31 人と最も多く、J R 中央線の高円寺駅、新宿駅方面への移動ニーズが高い。

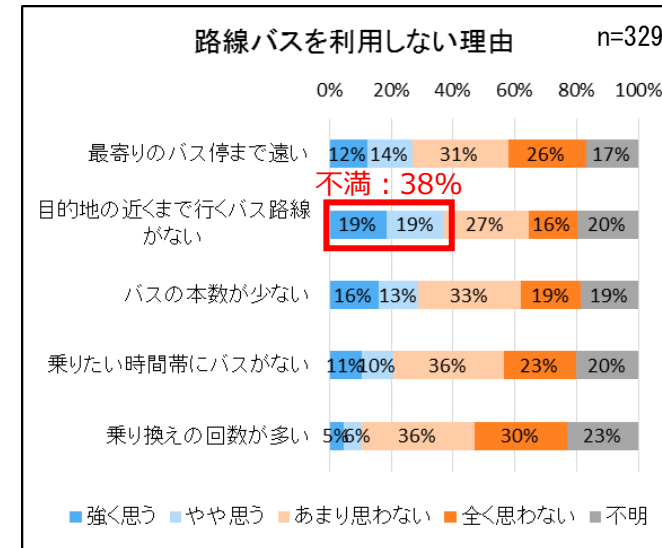


図 5-3 路線バスを利用しない理由

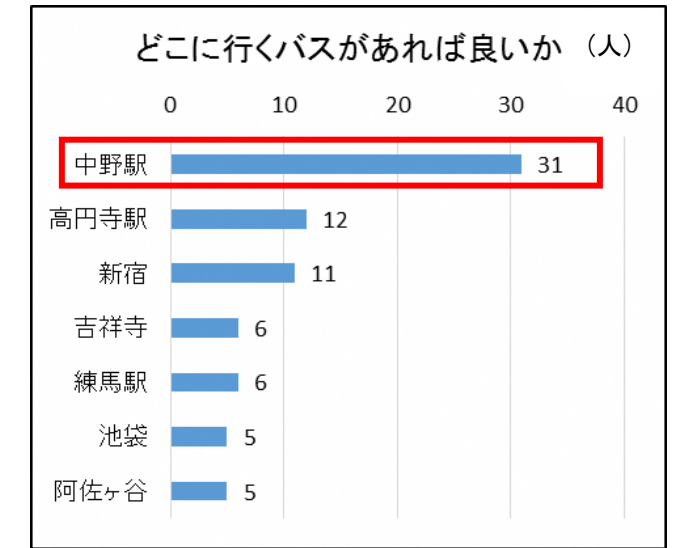


図 5-4 どこに行くバスがあれば良いか（移動ニーズ）

### (3) 移動時間帯

全体で見ると、朝は 7 時～8 時台、夜は 17 時～19 時台で移動割合が高い。高齢者（65 歳以上）で見ると、朝は 9 時～10 時台、夕方は 15 時～16 時台で移動割合が高く、日中の時間帯に集中している。

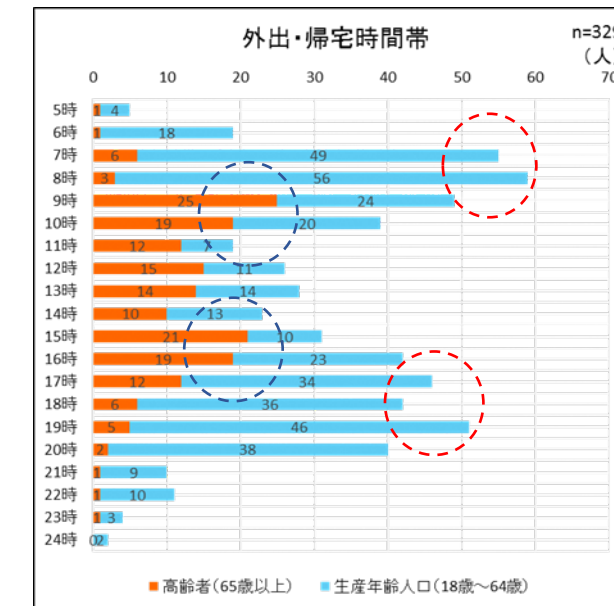


図 5-5 外出・帰宅時間帯

# 区民移動実態把握に関するアンケート調査結果（概要）

## 6. 主な自由意見

主な自由意見について、意見分類毎に中野区全体、圏域別に集計した。

### (1) 中野区全体

- エレベータ設置などの「駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見」（主に鉄道駅のバリアフリー化）が 99 件と最も多かった。
- 次に、南北を結ぶバス路線などの「バスのルート、行き先に関する意見」（主に南北交通の手段確保）が 72 件と多かった。

### (2) 圏域別

圏域別の集計結果は、概ね中野区全体と同様の傾向であった。

#### ① 南部圏域

- 「駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見」が 20 件、「バスのルート、行き先に関する意見」が 19 件。

#### ② 中部圏域

- 「駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見」が 25 件、「バスのルート、行き先に関する意見」が 14 件、「コミュニティバスの運行要望」が 14 件。

#### ③ 北部圏域

- 「駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見」が 25 件、「バスのルート、行き先に関する意見」が 18 件。

#### ④ 鷺宮圏域

- 「駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見」が 29 件、「バスの運行本数に関する意見」が 22 件、「バスのルート、行き先に関する意見」が 21 件、「コミュニティバスの運行要望」が 11 件。

表 6 自由意見の意見分類（件数）

圏域	町丁	全般			バスに関する意見			その他	合計
		不便を感じている	不便ではない	特になし	コミュニティバスの運行要望	バスのルート、行き先に関する意見	バスの運行本数に関する意見	駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見	
南部圏域	南台	2	5	3	2	7	2	10	31
	弥生町	1	3	0	3	9	3	6	25
	本町	2	1	2	0	3	2	4	14
中部圏域	中央	2	4	2	2	4	0	4	18
	東中野	1	0	1	2	1	4	6	15
	中野	0	5	1	4	3	3	3	19
	上高田	0	1	2	6	6	0	12	27
北部圏域	新井	0	0	2	2	0	0	4	8
	沼袋	3	0	0	1	5	0	4	13
	松が丘	0	2	2	1	1	2	5	13
	江原町	1	1	1	2	3	1	4	13
	江古田	1	3	1	0	4	0	3	12
	丸山	0	0	0	0	1	1	2	4
	野方	0	2	1	1	4	1	3	12
鷺宮圏域	大和町	0	2	0	3	4	1	9	19
	若宮	3	1	5	2	0	0	3	14
	白鷺	0	1	2	2	5	2	6	18
	鷺宮	4	2	4	2	7	10	4	33
	上鷺宮	2	1	2	2	5	9	3	28
南部圏域の合計		5	9	5	5	19	7	20	70
中部圏域の合計		3	10	6	14	14	7	25	79
北部圏域の合計		5	8	7	7	18	5	25	75
鷺宮圏域の合計		9	7	13	11	21	22	29	112
合計		22	34	31	37	72	41	99	336

○主な自由意見の例

- 不便を感じている区民の意見  
「北部地域から南部地域への直通的な交通網がなく不便」
- 駅の改良・鉄道・地下鉄に関する意見  
「鉄道駅のバリアフリー化（エレベーターの設置等）を進めてほしい」
- バスに関する意見  
「南北移動についてスムーズな手段を確保して欲しい」、「鷺宮地域から中野駅周辺へのバス本数が少ないので、非常に不便。増便して欲しい」、「病院・地域センター等に通えるミニバスを運行して欲しい」

## 7. 今回の調査でみられた課題と今後の方向性

中野区の地域特性等を踏まえ、課題を整理し、方向性について検討した。

### (1) 現況のまとめ

- 区内の路線バスは、鉄道を補完するように東西及び南北に整備されたバス路線により、主に区内の移動に利用されている。
- アンケート調査の日常の移動実態で、区外は新宿区（約 16%）、区内は中野駅周辺（約 12%）に移動する区民が多く、交通手段は鉄道が約 4 割、地下鉄、路線バス、徒歩のみ、自転車が約 3 割を占めている。
- 公共交通に対するアンケートの満足度調査では、約 70%が満足と回答しており、比較的公共交通は充実しているといえる。
- 一方、現在の交通手段に不満の区民が約 14%存在し、公共交通不便地域の面積割合が高い鷺宮圏域に多い。
- 高齢者の日常の移動実態は、区内での買物等の移動が多く、中野駅周辺への移動ニーズが高い。
- 主な自由意見で、バスに関する意見を圏域別で見ると、鷺宮圏域に住んでいる区民の意見が多い。鷺宮圏域は、他の圏域に比べ、バスの運行に関して課題が多い地域であるといえる。
- 狭あい道路が多く、都市計画道路の整備が遅れおり、新たに運行するバスルートが限定される。

### (2) 課題について

- 対象者によって、運行時間帯や運行間隔などのサービス水準、運行コストや区の財政負担が異なるため、高齢者等のみとするか、通勤・通学を含む区民を対象とするかサービス対象者を明確にする必要がある。
- 高齢者等の新たな公共交通サービスの利用を促進するためには、地域支えあい推進部や健康福祉部などの関連分野との連携が重要である。例えば、想定したバス路線の停留所施設（付近の公共施設等）で、高齢者の外出や交流を促進するイベントなどを開催し、高齢者の生きがいや健康増進を図るとともに、バスの利用率を上げる取組を図っていく必要がある。

### (3) 今後の方向性について

既存の路線バスとの競合を避けつつ、バス事業者や民間事業者との連携を図り、交通不便地域を解消するルートについての検討が必要である。そのため、運行条件（運行時間帯、道路幅員等）を整理し、運行車両や運行ルートについて検討を進め、事業としての実現可能性を検証する。